

模倣のすすめ

校長 上橋 秀司

子どもたちの明るい声、日焼けした元気な顔が学校へ戻ってきました。子どもたちは、家族や地域の皆様に見守られる中、思い出いっぱい楽しい夏休みを過ごしたことと思います。そして、心身とも一回り逞しくなった姿を見せてくれました。さあ、運動会に音楽会と全校生で創り上げる行事が続きます。気持ちを引き締めてのスタートです。

運動会での表現活動であるリズムダンスや手具体操、そして、伝統の若宮ソーランなどの指導を行うときは、まずは模範となる動きをどれだけきちんとまねさせることができるかが重要です。「動きを工夫して!」「動きを考えてみよう!」と課題を与えても、創造は何もないところから生まれません。まず、まねて学んで、学んだことから新しいものを発見し作り出すことが、「創造」につながります。

これが、「学ぶ」は「まねる」と言われている所以ですが、「習う」は、「慣れる」ことと言われています。学んだことを繰り返し繰り返し、聞いたり、見たり、したりして慣れることが、「習う」ことです。低学年の子どもたちを見ていますと、よく同じことをして飽きないのかなと思うことがあります。大人には、馬鹿らしく思える「繰り返し」が低学年の子どもたちには面白くてたまらないのです。本を読んであげると、同じ物語を何回も聞きたがります。同じ話では、飽きるだろうなど考えるのは、大人の誤った思いやりなのです。繰り返し繰り返し同じ事と向かい合わせることで、学んだことが身につく、その上に集中力も養われてきます。

古来、日本においては、「ひとまね」「さるまね」とまねを嫌う風潮もあります。しかし、他人の素晴らしき点を認め、それをまねて習う中に独自の能力が開くのです。

子どもたちにも、「友達のよいところは大きにまねよう!」と言っています。「まねばかりしてはだめ!」「まねばかりしてると何もできない子になるわよ!」と叱る前に、他人のよさに気づく子をほめ、そのことを自分に生かそうとする子を育てていきましょう。

独創力とは、思慮深い模倣の何ものでもない ボオルテール

「模倣のすすめ」は、基礎学力を身につけ、創造力や個性を伸ばすための一つのキーワードだと思っています。2学期も温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

兵庫県高等学校通学区域検討に関する説明会の開催について

このたび「兵庫県高等学校通学区域検討委員会」より、「兵庫県立高等学校普通科の新しい通学区域の在り方」についての公表にあたり、通学区域見直しの背景や趣旨等を小中学生を持つ保護者へ下記の日程で説明し、今後の検討の参考とするための意見交換をすることになりましたので、その旨をお知らせします。

- | | | |
|---------|---------------------|----------------|
| 1. 開催日時 | 平成23年9月11日（日） | 14:30～16:30 |
| | | ※説明会開始30分前から受付 |
| 2. 開催場所 | 灘区民ホール 大ホール（定員510名） | |
| | | JR六甲道駅から徒歩約10分 |